

11/22 学生部企画健康教育：保健室 MEMO

傷病者への学内対応【簡易版】

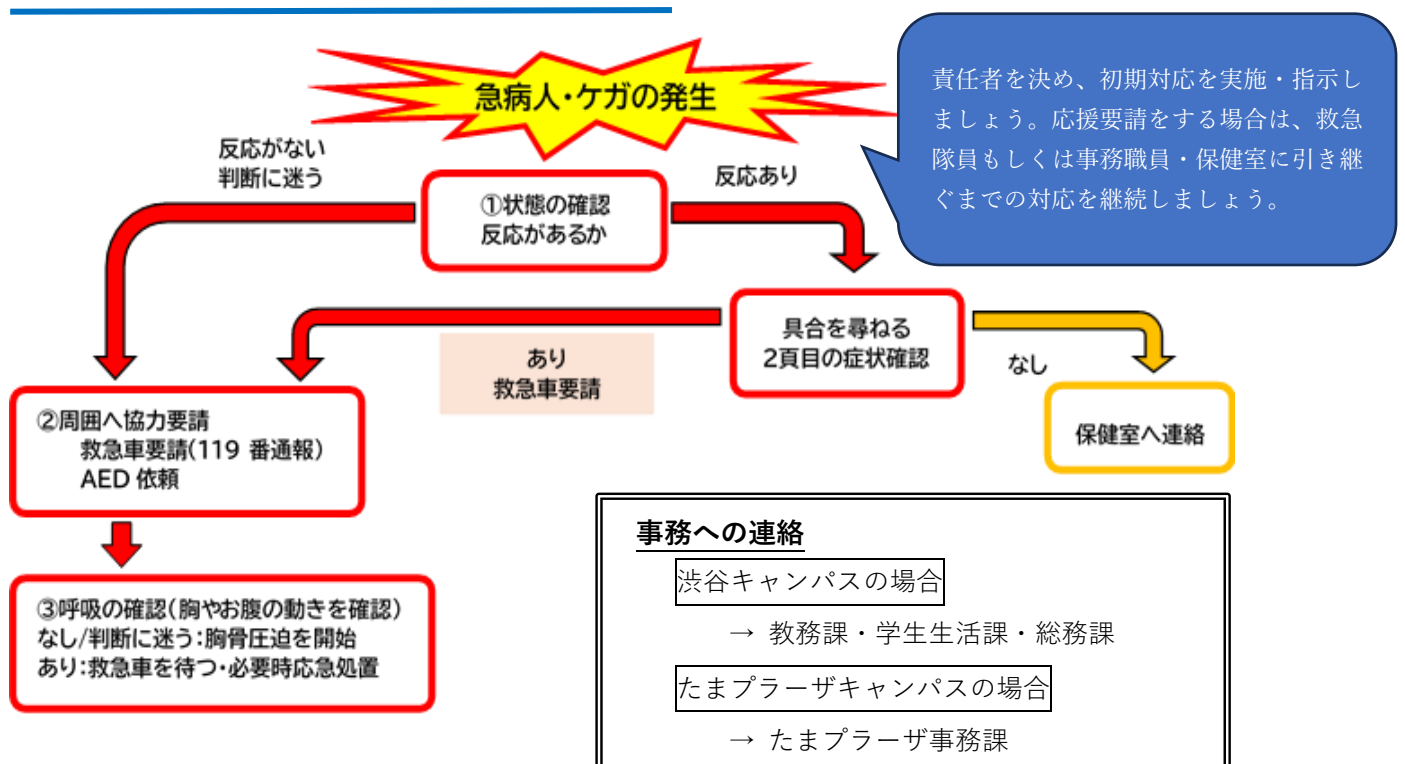
11月22日渋谷キャンパスにて、橋詰剛学校医が講演を行いました。

学内で傷病者がいた場合に、どこに連絡をするかなど本学での対応について話をしています。

ここには講演に参加していない学生・教職員の方にも知っておいてほしいことをまとめました。

また、講演では医師の目線から「倒れた時点の対応」だけでなく視点を広げてそこに至るまでの経過、救急搬送後の治療・回復までの一連の流れについて説明しています(詳細版に記載、希望者のみに案内)。

正課(授業)・課外(授業以外)で発生したら：救急車を呼んだら事務と保健室へ連絡を！



※参照！保健室 HP「いざという時の救命処置」では学内の AED 設置場所、心肺蘇生について案内をしています。

(保健室 HP→健康情報→怪我・応急処置)

<https://www.kokugakuin.ac.jp/assets/uploads/2024/03/7dac0129de2f4ba861629f55c290ae11.pdf>

夜間/休日/保健室閉室で発生したら：救急車を呼んだら警備室へ連絡を！

(後日事務と保健室へ連絡を)

擦り傷程度の応急処置物品は警備室にあります。 「意識がない・動けない」場合、「(意識があっても)2頁目の症状がある場合」には救急車要請をしましょう。

2頁目の症状がない場合には受診を案内し、移動が難しい場合はタクシー要請(自費)ができます。

※判断に迷ったら → #7119 (救急相談センター)

#7119 押す→自動音声ガイダンス医療機関検索は①、救急相談は②を押す

医師・看護師・相談員が電話対応し、場合により救急車要請や医療機関案内してくれる。

意識があっても、以下の症状が見られた場合には救急車を呼びましょう！

重大な病気やけがの可能性がります！

顔

- 顔半分が動きにくい、または、しびれる
- ニッコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくく、うまく話せない
- 見える範囲が狭くなる
- 突然、周りが二重に見える
- 顔色が明らかに悪い

おとな

頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 支えなしで立てないぐらい急にふらつく

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2～3分続く
- 痛む場所が移動する

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 激しい腹痛が持続する
- 血を吐く
- 便に血が混ざるまたは、真っ黒い便が出る

手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

意識の障害

- 意識がない（返事がない）またはおかしい（もうろうとしている）
- くったりしている

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

飲み込み

- 物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい、意識がない

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

事故

- 交通事故にあった（強い衝撃を受けた）
- 水におぼれている
- 高いところから落ちた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

出典：消防庁「救急車を上手に使いましょう」より抜粋… https://www.fdma.go.jp/publication/portal/items/portal002_japanese.pdf

※上記の他に、アナフィラキシー症状がある場合(エピペンを使用しても)救急車を呼びましょう。

救急隊に引き継ぐ際の留意点(伝える内容)

- ★発見時の状況、その後の状態の変化、実施した救急処置の内容。
- ★持病について、知っていること(病名、以前も同じ症状で倒れた、内服薬等)。
- ★もし、確認ができていたら以下も伝える。
 - ・いつまで(何時まで)症状がない状態だったか。
 - ・何をきっかけに具合が悪くなったか。